



栄中だより

栄中開校57年「いいとこ探しの学校」自主・自律・親和・協力 笑顔あふれる栄中学校

草加市立栄中学校

令和2年度3月号

令和3年3月1日

自分のシナリオ

～「分別力」と「創造力」～

校長 今泉 正之

2月の終わりは、まさに三寒四温の言葉通りとなりました。今日から3月、県公立高校の学力検査が終了し、今日は37人が面接・実技試験に臨んでいます。入学許可候補者発表の日に、春の陽の下、3年生全員が笑顔になることを期待しています。また10日後には、東日本大震災から10年の節目となる日がやってきます。先月には最大震度6強を記録する余震があり、コロナ禍の状況下で、警戒をし対応を考えておかなければならないと感じました。御家庭でも今一度、災害時の御確認をお願いします。

さて、今回はノーベル物理学賞を受賞した江崎玲於奈(えさきれおな)氏の言葉を紹介します。江崎氏は、1944年戦時中で入試が行われなかったため内申書審査で大学に入学。物理学を専攻し、卒業後戦争で荒廃した日本産業の復興に貢献したいと考え、国内の企業に就職。後にノーベル賞を受賞するエサキダイオードを発見した日本を代表する科学者です。その後アメリカに渡り長く研究生活を送った彼は、長い研究人生の中で、人間の知性は大きく次の2つに分けられると考えるようになったと言います。一つは「分別力」で、もう一つが「創造力」です。「分別力」とは、すでに知られている知識や情報を集めて判断、選択すること、で、「聴く」「読む」「覚える」といった「教わる教育」で養われ、日常生活をしていくうえでの必須の力、「創造力」とは、まったく新しいアイデアを生み出す力のことで、「疑う」「考える」「調べる」を基本とした「自ら学ぶ教育」で培われるもので、前者の教育では人間の天性は半分しか開花せず、残りの半分は自分の頭を使って試行錯誤することにかかっている。AI が今後人間をはるかに超える「分別力」を備えるようになると、人間の仕事の多くが AI に取って代わられる時代となった時、私たち人間は AI にはない「創造力」を生かすことが大切であると言います。そして、若い人たちに対して、「自分が何を得意とするかを見極めて、それを活かせる人生のシナリオを創作して欲しい。誰もが何らかの個性的能力を持っているはず。勇気を持ってリスクをとり、新しいことにチャレンジして欲しい。」と語っています。

15日に卒業する3年生は義務教育の9年間で修了します。この9年間、学校での学習ではおもに「分別力」を養ってきました。小学校1年生の文字や計算の学習から始まって、少しずつ「創造力」を培って「考える」ことが多くなってきたはず。中学校卒業後の進路先では、より「創造力」を使って自分の才能や特徴を活かして将来へのシナリオを書いていくことになります。面接練習で「将来の希望」を聞くと、多くの人が「まだ決まっていません」と答えました。もちろん決める必要はありません。ただ、江崎氏が言う「人生のシナリオを創作」することが必要なのです。これは新2年生も、3年生も同じことで、わからないことをできないと決めつけず、「なぜ」「どうして」を大切に自分の可能性を探す準備と行動をして欲しいと思います。細菌学者のパスツールは「チャンスは準備を整えたところにやってくる。」と言いました。いつも思った通りにいくとは限りませんが、準備と行動をしていないとチャンスはやってこないのです。

※保護者・地域の皆様 1年間 学校に対し御理解と御協力をたまわり、誠にありがとうございました。

また、今年度の卒業式は卒業生一人につき1名の保護者の方の参加となります。当日1,2年生は臨時休業となります。午前中は家庭学習をするよう御指導ください。御来賓の方には御出席をいただくことができません。御容赦くださいますようお願いいたします。